

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名
茨城県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

S24310	
S16008	

③施設名等

名称：	児童養護施設 誉田養徳園
施設長氏名：	樺 忠彦
定員：	37名
所在地(都道府県)：	茨城県
所在地(市町村以下)：	常陸太田市瑞龍町1425番地
T E L：	0294-72-3415
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1952/8/1
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 誉田会
職員数 常勤職員：	30名
職員数 非常勤職員：	4名
専門職員の名称(ア)	児童指導員
上記専門職員の人数：	11名
専門職員の名称(イ)	社会福祉士
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称(ウ)	保育士
上記専門職員の人数：	8名
専門職員の名称(エ)	心理療法士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(オ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(カ)	看護師
上記専門職員の人数：	1名
施設設備の概要(ア)居室数：	1人部屋5室、2人部屋7室、3人部屋6室、4人部屋6室、5人以上部屋1室
施設設備の概要(イ)設備等：	冷暖房設備、合併浄化槽、非常通報装置(消防関係)、非常通報装置(セコム)、屋内消火栓、
施設設備の概要(ウ)：	食堂、リビング、学習室、パソコン室、医務室、静養室、セラピー室、浴室、便所、洗濯室、玄関等
施設設備の概要(エ)：	職員室、事務室、家庭支援室、宿直・休憩室、職員便所、調理員便所、倉庫、車庫

④理念・基本方針

法人理念：「あさおき、正直、働き」の天理精神を養い、将来社会人として自立し得る人を育成する。
 養育理念：子どもへ安心して落ち着いた生活環境を提供して、心身ともに健やかな発達を保障する。
 運営方針：生活施設である児童養護施設は、入所している子どもたちが安全で安心できる環境を継続的に抵抗することを目的としている。園内の全ての業務は入所している「子ども」に直接的な影響を及ぼす。養育における着地点は常に「子どもの利益」であることを意識する。

⑤施設の特徴的な取組

本体施設(定員25名)の他、地域小規模児童養護施設(定員6名×2施設)を運営しています。
 オレンジリボン啓発活動については、今後も地元団体と協力し合いながら、積極的に取り組んでまいりたいと思っています。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/10/13
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2018/3/26
受審回数	2 回
前回の受審時期	平成 26 年度

⑦総評

□特に評価の高い点

施設長始め管理者の立場にある職員は、日頃より職員一人ひとりにしっかり寄り添い話を聞く機会を多く作り、職員が悩みを抱え込まないようにして、職員が働きやすい職場環境作りに努め、必要な人材確保についても積極的に取り組んでいる。職員は計画の下、必要な研修に出る機会が多く確保され、研修で学んだことを共有することで、職員全員が共通意識を持って養育に取り組めており、そのことが職員の定着にも繋がっている。「どならない子育て練習法トレーナー養成講座」を修了した職員を中心に、新採職員の研修に取り入れたりして職員の統一した養育・支援に取り組み、成果を上げている。地域社会の中の施設といった考えの下、職員が子ども会の役員を引き受けたり、子ども会の行事に子ども達を参加させたりと、地域交流に積極的に取り組んでいる。市の子育てイベント「子育てメッセ」に実行委員となって参加し、施設の紹介やオレンジリボン運動の啓発に努めたり、地域自治会の夏祭り等の事務局を務めたりと、地域の中の中核的な存在として地域活動に貢献している。各種委員会が中心となり、食事や生活、行事等を子ども主体で考え、実行している。一定のルールの中で子ども一人ひとりの人格を尊重し自由な生活を保障し、子ども達の伸び伸びと安心で落ち着いた生活環境作りに取り組んでいる。

□改善を求められる点

理念、基本方針を含めた施設の詳細が周知できるよう、ホームページの立ち上げとともに、保護者や子どもにも分かりやすい資料を作成して説明が出来るようにすることを期待する。また、子どもが家族の状況を含め自分の生い立ちや家族の事を知ることは重要なことであり、子どもから知りたいといった申し出があった場合、その気持ちを尊重し年齢や発達段階に配慮し、子どもに伝える方法として、組織の対応方法についてマニュアルを作成し職員に周知しておくことを期待する。施設が実習生、ボランティアを受入れていくことは将来的な人材育成や養護施設の理解等社会的にも意義のあることであり、実習生、ボランティアを受け入れにあたり支援計画書等にその意義等を記していくことや「期待する職員像」を言語化し、職員の目標設定と目標管理を行うことを期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

二度目の受審となりますが、前回から改善されずにいる課題について、良くなるよう、日々努力して参りたいと思っております。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	b ○ ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 支援計画書に法人理念、養育理念、運営方針を記載し、事業所が目指す子どもの自己実現のための段階的な支援を図解し分かりやすく示している。年度当初の職員会議で支援計画書を職員に配布して周知徹底を図り、職員は支援計画書に則した日常業務の運営に努めているが、保護者や子どもに説明、周知するために分かりやすい資料を作成するまでには至っていない。ホームページの立ち上げを検討しており、現在はブログで行事や生活についての情報を発信しているが、園の詳細を周知させるものではない。園に関する情報を載せたホームページの立ち上げと、子どもや保護者に説明をする分かり易い資料の作成を期待する。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】 施設長は県の児童福祉施設協議会の会長を務めるなど、社会福祉事業全体の動向や地域の福祉計画等の情報の収集に積極的に努めている。児童養護施設における家庭的養護の推進といった国の政策に沿って平成10年度より、施設の小規模化、地域化に取り組み現在は本体施設のユニットケア3ヶ所と、地域小規模児童養護施設2ヶ所を運営している。経営状況については法人の理事会に合わせて事業と予算の執行状況を分析し、議案として協議している。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

小児化を背景とした入所児童の推移や、家庭的養護推進計画に基づく小規模ケアの取り組み等、経営課題としてこれまで議論してきた経緯があり、平成10年度より小規模グループケアの取り組みが始まっている。施設の建替えや職員の育成について、課題を明確にし、新しく出された「新しい社会的養育ビジョン」の見極めをした後に本体機能の縮小等を含めた経営課題の見直しを図るように検討している。発達障害等のある児童の入所や養育・支援の困難な児童の増加もあり、対応できる人材の育成を課題と捉えている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

平成10年度より、施設の小規模化、地域化を進めており、現在は本体施設も3ヶ所のユニット化、地域小規模養護施設2ヶ所の運営を行っている。施設が定めた平成27年から15年間の児童養護小規模化に向けた中・長期計画「家庭的養護推進計画」を作成し、今後では平成35年と41年に、定員6名のファミリーホーム2ヶ所の建設が予定されている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

単年度の事業計画は策定されているが、中・長期計画を反映した具体的な目標を設定したものにはなっていない。今後は中・長期計画の内容を反映して策定するとともに、計画の実施状況を評価したり、今後の数値目標を入れることを期待する。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

支援計画書の作成については、各種委員会で年度末に実施される年間の反省を基に、支援計画書が作成されている。年度当初の職員会議で支援計画書を職員に配布して説明等が行われ、周知徹底を図り、支援計画に則した施設の運営や日常業務が実施されている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

施設の行事等は知らせているが、施設の基本理念や基本方針、処遇計画、支援計画書の必要な個所等を子どもや保護者に分かりやすい資料を作成し説明するまでには至っていない。資料を作成し、説明することを期待する。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	第三者 評価結果 b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

定期的に第三者評価を受審するとともに、結果について職員会議等で話し合いを持っている。毎年1回職員は自己評価を行い、グループ毎の取りまとめを行っている。グループ会議や自立支援委員会で子どもの養育・支援の質の向上に向けた検討が行われている。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

前回の第三者評価の受審結果を職員に周知するとともに、第三者評価の結果を分析し、結果やそれにもとづく課題を明確にして新たな文書の作成や、マニュアル作りに取り組んでいる。毎月2回のグループ会議で、評価結果で明らかになった課題について確認して改善策について話し合い、その後運営会議で諮り、職員会議で決定し、職員周知を行っている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

職務分担に施設長の職務について明確に表記するとともに、職員会議等で施設長の自らの役割と責任について常に表明し、日常的なリスクマネジメント及び危機対応についても積極的に取組み、子ども達や職員から信頼を得ている。運営規程や、毎年作成している支援計画書の中で、それぞれの職員の役割について明確にしており、自らの役割についても把握して職員周知を図り、取り組んでいる。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は遵守する関連法令を正しく理解し、研修等にも積極的に参加し遵守する法令等を理解している。全ての職員を権利擁護の研修に参加させたり、職員が必要とする研修に出席させ、遵守すべき法令等の正しい理解を促している。施設長は、県の児童福祉施設協議会の会長であることから、様々な情報を得る立場にあり、発信する立場でもあることから、研修や勉強会にも参加し、職員への周知徹底も行っている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は各種の会議や委員会を設置し、施設内の養育・支援の質の向上に向けた体制を整備している。どならない子育て練習法を積極的に取り入れ、職員が統一した養育・支援が出来るように取り組んでいる。職員が養育・支援に苦慮している子どもの事例に積極的に係わりを持ち、職員の相談に乗ったり、通院に同行するなど、困難な事例に率先して対応している。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	

【コメント】

毎月運営会議を開催し、経営の改善や業務の実行性に努めている。職務分掌、子どもの担当は適材適所や相性を考慮し、業務の実行性を高めるために専門職の人員配置をして、各種の加算を受けられるように配慮している。また、必要な人材を配置できるように考慮して、人材確保を行っている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	第三者 評価結果 a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

基幹的職員や家庭支援専門員、里親支援専門相談員、心理担当職員、個別対応職員等必要な人材を確保し、職員は各職種の専門性や役割を理解し、お互いに連携を取りながら子どもの養育・支援に取り組んでいる。大学からの実習生の受け入れを積極的に行い、養成校へ人事確保に出向くなどして人材確保に努めている。平成30年度には職業指導員を配置するなど、必要な福祉人材の適切な確保にも努力している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。	

【コメント】

支援計画書の中で人材育成の研修プランとして具体的な計画が立てられている。施設として「期待する職員像」があり、それを基にした人材育成プランがあるが、言語化されるまでには至っていないため、今後言語化して職員に周知していくことを期待する。人事考課を行うまでには至っていないが、年1度施設長が職員と就業状況や就業の意向についての面接を実施し聞き取りをしている。施設長は日頃から職員と行動を共にする機会を多くする中で、職員の勤務の状況等で見極め必要に応じて職員と面接を実施して労務管理に努めている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

年1回は施設長と職員の面接の機会を作り、必要に応じて複数回面接を実施したりと職員の就業の意向を確認している。職員の公休に希望休を取り入れたりと、祭日休暇を毎月1日プラスしたり、夏季、冬季休暇の取得が出来るよう配慮している。管理職が普段から率先して職員に定時で退勤できるよう声掛けしている。職員の福利厚生でソウエルクラブに加入したり、職員互助会を組織し、運営している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

新採職員には、少なくとも3ヶ月間はベテランの職員と一緒に勤務できるよう、ローテーションを組み、子どもの養育・支援についてアドバイスをを行い、育成に努めている。施設長は必要に応じて職員と面接を行うなど、職員一人ひとりの育成に取り組んでいる。「期待する職員像」は共通理解の下周知されているが、文章として明示されていないため、明文化するとともに、職員が目標設定をして達成度を確認するなど、目標管理に関する仕組み作りを期待する。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

「期待する職員像」を明示していないが、研修厚生委員を中心に職員の研修計画を企画し、職員は施設外研修、施設内研修に参加している。処遇職員を対象とした研修プランとして、職員の従事年数に従った研修計画を立てている。看護師による職員向けの感染症対応の実践研修や外部研修に参加した職員には講師役として伝達してもらう「報告会」を計画し、職員への周知を図っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

【コメント】

新採職員には3ヶ月間はベテランの職員と一緒に勤務できるようにローテーションを組んで子どもの養育・支援についてアドバイスをを行い新採職員の育成に努めている。処遇職員を対象とした勤務年数を目安とした研修計画が作成されており、どの職員も研修の機会が作られている。看護師による感染症の実践研修や外部研修に参加した職員による「報告研修」で、内部研修を実施している。「そだれん」というペアレントトレーニング、「どならない子育て練習法」の研修を職員が受けている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

県内の協定校を中心に実習の受入れを行い、受入れマニュアルに沿って実習生とのオリエンテーションを実施して、養護施設の機能、役割等の理解につながる実習となるよう配慮している。実習生を担当する職員は必要とする研修を受け、実習の指導に当たっている。実習生には子どもの個人情報の取扱いに対する守秘義務の誓約書にサインをもらっている。今後、実習生受け入れマニュアルの中に、実習生の受け入れの意義を盛り込むことを期待する。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	第三者 評価結果 b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

市の子育て支援イベントで施設の紹介パンフレットを配布している。毎月ブログの発信は行い、メールで子育ての相談を受けるとともに、寄付等についても報告を行っている。ホームページは現在作成を検討中であり、今後はホームページを活用して、より一層の施設運営の透明性を確保するために、養育・支援の内容や事業計画・報告、予算、苦情対応の状況等についても公表を検討することが望まれる。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

事務、経理等のルールを経理規程を基に職員に周知している。毎月開催する運営会議で事業の状況を検証することで、適正な経営・運営の取組に努めているが、今後は外部監査受審により、さらなる経営改善の取組を期待する。

4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

地域社会の中の施設という考えの下、地域自治会行事の事務局を担当したり、子ども会の役員として廃品回収やボウリング大会等の子ども会行事を実施したりと、地域交流を積極的に行っている。職員が小学校のPTAの副会長を務めるなど、学校の先生や地域の保護者と交流の機会を持ち、子どもの理解に努めている。定期的な市内の養育支援イベントでは、多くのボランティアを受け入れ活動している。学校の友人が施設に遊びに来たり、友人の家に رفتりしている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○

【コメント】

学習や読み聞かせのボランティアを受け入れ、ボランティア受け入れ記録に、活動中に気が付いたことを記入してもらっている。受入れに際しては子どもの個人情報の守秘義務の誓約書にサインをもらっている。ボランティア受け入れに関する意義、基本姿勢を明文化することを期待する。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

児童相談所や学校、医療機関、警察、消防署、公民館等、社会資源を明確にし、連絡方法を明記して職員に周知している。児童相談所や小学校の先生と、夏休みに子ども一人ひとりの処遇検討会議を実施している。地域の学校で合同研修会や施設見学等を行い、児童養護施設がどんなところかを学校の先生に知ってもらったり、大学の先生を呼んでケースカンファレンスを行ったりしている。また、周辺の市からのショートステイの受け入れを行っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○

【コメント】

市の子育てイベント「子育てメッセ」に実行委員となって参加し、オレンジリボン運動や里親制度の啓発に努めたり、地域自治会の夏祭りや秋祭り等の事務局を務めるなど、地域の中の中核的な存在として地域活動に貢献している。社会福祉協議会主催の福祉祭りの相談を受け助言をしたり、地域社会福祉事業に協力している。地域の「子ども110番」を請け負っている。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○

【コメント】

職員が地域やPTAの役員を積極的に引き受けて、地域の住民と交流を持ち、地域の福祉ニーズの把握に努めている。ショートステイの利用を受け入れている。ブログのメールで養育相談が寄せられることがあり、施設長に相談し施設として対応している。里親支援機関の指定を受け、地域の里親支援を行っているほか、子どもの虐待防止「オレンジリボン運動」に参加している。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

施設の運営方針に、養育における着地点は常に「子どもの利益」であるとした共通理解を持って取り組んでいる。事業所の基本理念の下に定められた基本方針に、「個人の尊重・成長発達を支援・自立支援」を定め、職員共通理解のもと支援に当たっている。全国児童養護施設協議会倫理綱領を掲げ、グループ会議等で自立支援計画についても検討を行い、共通した支援に努めている。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○

【コメント】

支援計画書に個人情報の取り扱いとして規程に記入している。入所時に子どもや保護者に個人情報の取り扱いについて説明を行い、同意書にサインをもらっている。権利擁護の研修に参加し、人権意識を高めている。子どもにとっての最善の利益を常に考えて養育・支援にあたっている。居室でのプライベートゾーンを確保するなどの取り組みをしている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	c
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

入所予定の子どもに対しては、一時保護所の段階から利用に必要な情報を提供している。保護者に対しては施設の行事、地域交流等の活動情報等をブログ等を使って発信している。パンフレットや支援計画書が作成されており、それを基にして説明等を行っているが、パンフレットには理念や基本方針が明記されていない。子どもでも分かり易い資料の作成を期待する。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

養育・支援の開始に向けて、子どもや保護者に家庭支援専門員を窓口に、支援計画書や重要事項説明書を使用し、養育・支援に関しての必要な情報を伝えるように支援している。入所時に必要とする生活の情報についてのしおりを現在作成中である。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

措置変更や地域・家庭への移行等の場合は、児童相談所、関係機関と十分に協議した上で対応している。児童相談所と連携を取り、必要に応じて家庭支援専門相談員が家庭訪問を実施している。退所した後の相談窓口や担当者が決まっている。担当者でなくても、対応している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

職員は日頃より子どもと接する中で、意見や要望を聞くようにしている。各ユニットに意見箱を設置し、意見箱に入っていた意見については毎月グループ会議で検討し、必要に応じて職員会議で検討し、子どもと面接して話を聞いたりしている。献立については、子どもや職員に嗜好調査を実施している。内容によっては子どもと個別面談を行うほか、普段から会議のような形態で話し合う場を設けている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情受付制度のマニュアルにより受付と責任者を配置し、第三者委員を配置した苦情解決制度を整備している。現在苦情として受け付けた事例はないが、今後、苦情の解決結果等を苦情を申し出た子どもや保護者に配慮したうえで、公表する仕組み作りの検討が望まれる。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

各ユニット毎に意見箱が設置されており、担当職員が毎月1回収し、入っていた意見をグループ会議で検討している。必要に応じて職員会議に諮られている。年2回定期的に子どもたちと面接(聴き取り調査)を実施している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

職員は日頃から子どもと接する中で、意見や要望を聞くようにしている。各ユニットに意見箱を設置し、意見箱に入っていた意見については毎月グループ会議で検討し、必要に応じて職員会議で検討している。必要に応じて子どもと面接をして話を聴き、対応している。職員全員が方法を周知し、同じように対応している。出された意見は、施設長まで上がる仕組みになっている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

月1回リスクマネジメント委員会を開催し、事故やヒヤリハット事例の検討を行い、再発、予防に努めている。事故対応や不審者、食中毒、無断外出、虐待防止、非常災害、各種トラブル等のマニュアルを整備している。定期的な遊具の安全点検や自転車等の点検、通学路の危険箇所の点検等が行われ、子どもの安全確保がなされている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○

【コメント】

感染症に対する予防と標準的なマニュアルが作成されており、感染症発生時の医療機関等を含めた緊急連絡網が整備されている。常勤の看護師が勤務しており、感染症が発生した場合の適正な対応や、感染症に対しての職員向けの嘔吐物処理セットの使い方の講習会を実施している。正しい手の洗い方等が水周りに掲示してあるほか、発生時の対応マニュアルに基づき、実際に行ってみるなどの勉強会も開かれている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○

【コメント】

処遇計画の中に、災害事故防止対策として災害事故防止に留意した各種訓練を行い、防災と安全意識を高めるとしている。毎月の避難訓練の他に、消防署と連携を取り、協力を得ながら防災計画に基づいた総合訓練を年2回実施している。担当を決め備蓄のリストを作成して、ランタンや発電機、毛布、簡易トイレ、ペーパー等を備蓄している。賞味期限のある食品等についてはその都度消費して、入れ替えを行っている。災害時の対応マニュアルがあり、毎月の非常災害訓練を行う際には、災害時の集合場所を確認させている。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

支援計画書の中に具体的な実践内容として、20項目にわたり養育・支援の標準的な、具体的な内容を文書化し共有化を図っている。「そだれん」というペアレントトレーニング、どならない子育て練習法の講座を修了したトレーナーの資格を持つ職員が、新採の職員に研修をする機会を持ち、養育・支援の標準化を図っている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

支援計画書の中に具体的な実践内容として、20項目にわたり養育・支援の標準的な具体的な内容を文書化し共有化を図っている。毎年、支援計画書を作成する際に見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

適切なアセスメント手法により、自立支援計画を策定している。自立支援計画の策定にあたり、児童相談所からの「児童相談所援助指針」を参考にし、日常的な観察や面談を通じて、児童の意向の把握に努め、子どもの担当者が自立支援計画を作成し、グループ会議で検討している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画の評価を、基本的には年2回(9月・3月)行っている。状況に応じて随時見直しを行うこともあり、その際は職員会議等で周知が図られている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりの課題に対して養育日誌の記入が行われている。日誌は統一した様式で記録され、パソコンのネットワークシステムを利用して情報の共有が図られている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

パソコンのネットワークシステムを利用して、自立支援計画に支援上の課題に対する支援目標を立て、支援内容・支援方法を記入し適切に記録され職員で共有している。個人情報の取り扱いについては、子どもや保護者等に重要事項説明書で説明し、「情報提供同意書」にサインをもらっている。子どもの記録の管理担当は職務分担表に明記されているが、保管、保存、廃棄、情報の提供の方法に関して、文書で明記することが望まれる。

□

内容評価基準（41項目） A－1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
<p>① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>支援計画書に全国児童養護施設協議会倫理要領を掲げるとともに、法人理念、養育理念、運営方針を明記し、子どもを尊重し、子どもの最善の利益を共通理解として養育に取り組んでいる。職員の共通理解の下、子どもの最善の利益を保障するために、あらゆる情報を提供し、子ども一人ひとりとしっかり寄り添い丁寧な養育・支援に努めている。</p>	
<p>② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>職員は、ライフストーリーワーク研修に参加し、理解を深め、養育・支援に当たっている。子どもが家族の状況を含め自分の生い立ちや家族のことを知ることは重要なことであり、子どもから知りたいといった申し出があった場合、その気持ちを尊重し年齢や発達段階に配慮し、子どもに伝える方法として、組織の対応方法についてマニュアルを作成し職員に周知しておくことを期待する。</p>	

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○

【コメント】

子ども達は児童相談所で権利ノートを使って、子どもの権利については説明を受け入所している。ゲームの使用時間を含め、一定のルールを守った上での自由があること、権利があることを普段の生活の中から伝えている。施設生活の中で保障される様々な権利について、子どもにもわかりやすい資料を現在作成中とのことなので、出来上がり次第子どもに配布し、説明することを期待する。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもが個別にふれあう時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するよう支援している。	○

【コメント】

日々の生活の中で生きる力を身に付けさせ、縦割り外出の機会やキャンプ、東京での社会科見学等の様々な生活体験を通して他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。子ども達は行事やスポーツ活動等で、日頃より多くの人と関わる中で、他者への心遣いや他者の立場を配慮する心を育てている。担当の指導員と二人で買い物に出かけたり、誕生日に外食をするなど、個別の関わりを持つようにしている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○

【コメント】

就業規則の中に明記するとともに、支援計画書の冒頭に、「全国児童養護施設協議会倫理綱領」を掲げ、「私たちは、子どもへの差別・虐待を許さず、権利侵害の防止に努めます」として、施設長始め職員に周知徹底を図っている。権利擁護の研修に全職員が参加している。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○

【コメント】

就業規則に不適切なかかわりがあった場合の罰則を明示するとともに、ワンピースクラブという施設独自の性・生教育のプログラムを行っており、不適切な関わりの具体的な例を子ども達に周知する等、自分自身を守る知識を教えている。「人権擁護と人権侵害の禁止・防止・対応のためのチェックリスト」を使うなど不適切な養育に関して、職員が日々の養育支援の内容をチェックする仕組みの構築を期待する。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

全職員が人権擁護、虐待防止に関する研修に参加している。これまで虐待の事例はないが、被措置児童等虐待の届出・通告について対応する体制が整えられている。対応マニュアルが作成されていないため、作成することを期待する。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○

【コメント】

法人理念には「あさおき、正直、働き」の天理精神を養い、将来社会人として自立し得る人を育成する。とあるが、日常的には元旦にお参りに行くこと以外、宗教色を出した日課、行事は行われておらず、子どもや保護者の思想や信条の自由は保障している。特別の配慮を必要とする子どもはいないが、今後必要になれば対応できる態勢は整っている。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	○

【コメント】

入所前に職員が児童相談所の一時保護所に出向き、子どもと面接をする中で、施設のパフレットを使って施設の説明等を実施し子どもの不安を和らげている。子どもでも分かり易い説明用の施設のしおりは、現在作成中である。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○

【コメント】

子ども達が実施している毎日の様々なルールを自分たちで決め、自主性を持った生活が送れるよう支援している。職員自身が健全で「大人」として良い手本となり、全職員が一貫性のある支援を実践できるようにしている。子どもの自主性を考えて、「子ども会」という組織作りはしていないが、折に触れ子どもたちと話し合う機会を設けており、その際に話をしたり、意見を聴いたりしている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜改変している。	○
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○

【コメント】

ゲームの使用時間帯やテレビの録画、職員同伴でのインターネットの利用など、ルールを設けている部分はあるが、余暇の過ごし方は子ども達が主体的に考え生活できるように支援し、「子ども会」は組織化せず、自主性を重んじた活動をさせている。子どもは思い思いの場所で自由に過ごしている。ゲーム等は職員室で管理している。テレビは自室でも、各グループのリビングでもどちらでも好きなほうで見ることができる。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○

【コメント】

年齢に合わせた小遣いを支給し、決められた小遣いの中から買い物をして金銭出納帳を記入することで、経済観念が身につくよう担当者を中心に支援している。「自立支援プログラム」と画一化されたものはないが、自立の間近な高校生の多い分園では、毎月の光熱費や水道料金の表が一覧になって、いつでも見られる場所にあったり、有る材料や、小遣いの範囲でお弁当を自主的に作るなど、自然と自立に向けた取り組みが見られている。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員は児童相談所と連携を取りながら家庭復帰について相談し、家庭復帰後安定した生活が送れるように家庭環境整備に努め、課題がある場合は児童相談所とも協議を行っている。保護者等に電話連絡や家庭訪問の実施を行っている。遠いところでも職員が連れて行き、面会させたり、様子を見ながら間に入るなど独自の取り組みを行っている。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

措置延長については子どもの状況やニーズに合わせて取り組んでいる。必要に応じて措置延長制度を活用している。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所後の相談窓口を伝え、いつでも相談できる旨を伝えている。退所している子どもが電話を掛けてきたり、施設を訪ねて来ており、その都度相談に乗って対応している。特別に集まれる場所や機会を設けているわけではないが、退所者と職員はラインでつながり、成人式などの節目で連絡があったり、訪ねてくる子どもがいる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

職員は子ども一人ひとりとしっかりと向き合い、子どもの理解に努め、子どもの表出する感情や言動をしっかり受け止めるよう努めている。職員は子どもがルールが守れない場合、守れるようにする過程を大切にしたり、日頃より叱った分だけほめるよう心掛けるなど共通意識を持ち、支援に当たっている。

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

本体施設のユニット化や地域小規模養護施設での子ども一人ひとりの個別の係わりの中で、子どもとの信頼関係を構築し、個々の子どもの生活を観察し、子どもに応じた柔軟な対応が出来るようになってきている。子どもに理想の大人像を描いてもらうため、職員一人ひとりが言動に気をつけている。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

子どもの可能性を信じ自立心が育成されるよう職員は見守っている。高校3年生には、将来の自立を見据えて弁当作りを見守って支援している。職員は、子どもを叱った分だけほめるよう心がけている。生活に関する洗濯や掃除等は年齢に応じて、出来ることを自分で行えるよう働きかけている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

施設は自然環境に恵まれた環境にあり、施設敷地内に一輪車に乗ったり、鬼ごっこをしたりと体を動かすには十分な広さのグラウンドがある。施設長と一緒に飼育している犬や猫の世話をしている。学習室があり、年齢に応じた学習教材が提供され、自主的に宿題や勉強をしに行く環境が整えられているとともに、施設長や学習ボランティアの学生が勉強を見ている。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○

【コメント】

職員自身が健全で「大人」として良い手本となり、子どもが将来しっかりと自立できるように、必要な基本的な生活習慣と生活技術が十分身につくように支援している。行事で外出に出かける機会や子ども会、地域の行事等に参加することで社会規範等を学んでいる。行政書士を講師に招き、社会での身近なトラブルについての対応等を学ぶ機会を作っている。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○

【コメント】

食事の場所をユニット毎にしていることで、少人数でのゆったりとした食事時間となり、トラブルもない。子どもたちは、食事時間の中で自由に食事を摂っており、其々に挨拶をして適温の食事を食べ始め、食べ終わると挨拶をして片づけ、部屋に戻るなど、自分の時間に合わせて食事時間を過ごしている。食器は陶器のものを使用し、ご飯茶碗はそれぞれ好みのものを買って使っている。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○

【コメント】

嗜好調査を実施して、子ども達の希望するメニュー等を調査している。献立会議を随時開き、子ども達や職員の意見を取り入れメニュー作りに反映している。誕生者には事前に好みのメニューを聞き、献立に取り入れ、子ども達に提供している。グループ毎に夕食の時間帯に外食の機会を作っている。残食チェックをしている。アレルギーに関してはダブルチェックをして確認をしている。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつのはり方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○

【コメント】

食育委員会と行事委員会が協力して、クックデーや収穫祭といった食育に関する年間計画を作成している。「おせち料理を知ろう」「節分を学ぼう」等の計画を立てたり、敷地内の畑で収穫したジャガイモやさつまいもを収穫し、料理に使用するという実施している。日常のメニューによってはナイフとフォークを使う機会を作っている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

季節毎に衣類の買い物の機会を作り、担当者と相談しながら適切で好みに合わせた衣類の購入の支援を行っている。洗濯はそれぞれで行い、好みの柔軟剤を購入して使用している。自分の好みに合った衣類を選び購入するとともに、流行にとらわれない衣類選びが出来るよう配慮している。

(4) 住生活

① A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
□庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	○
□室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	○
□食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
□トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	○
□必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
□設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
□発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

週末は子ども達で清掃の時間を作り居室はもちろん、清掃場所を決め清掃を実施している。居室等が散らかっている場合は、都度子どもに声かけをして、下校後や週末と一緒に片付けをし、居室の整理、整頓に努めている。

② A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
□小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
□リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	○
□中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
□年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	○

【コメント】

生活空間を共有スペースとプライベートスペースに分けることに関して、子ども達に理解を求め、プライベートスペースとして個室が確保され、子どもが安心、安全を感じる居場所が確保されている。子ども間での他の部屋への入室は原則禁止とし、各ユニットに居間が設置されており、子どもたち同士で寛ぐ空間となっている。小規模グループでの養育を行っており、子どもたちの相性を考えて部屋の配置を行っているほか、発達障害のある子どもは一人部屋で事務所の近くの部屋にしているなど、現状に合ったスペースの確保を行っている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○

【コメント】

日頃より手洗いやうがい、歯磨きの習慣、被服の清潔等の衛生観念の育成に取り組み、また体力作りに励むなど病気の予防にも力を入れている。通学路の危険箇所をチェックしている。安全教室を行い、自転車の乗り方や交通ルール、遊具の安全な遊び方などを指導している。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

定期的に健康診断（年2回）、検便（2回）を実施し子ども達の健康状態を把握している。常勤の看護師が服薬管理や通院引率を行い、協力医療機関と連携して、感染症の情報を得て予防注射を受ける等、子ども達の健康管理に努めている。看護師が中心となり、健康管理を行うとともに、感染症予防のため、手洗い指導を徹底するよう職員にも声かけをしている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

性について考える委員会が、施設内で年代や性別に応じた、「ワンピースクラブ」と呼ぶ子供向けの性教育プログラムを行っている。プライベートゾーンへの接触などやってはいけないことなど、子どもの理解度に応じた性について正しい知識を得られる機会を作っている。年齢に合わせて、手作りの紙芝居を実施したり、高校生向けに法律に絡めた話を、司法書士を講師に呼んで行うなど、子どもの理解を促している。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○

【コメント】

小遣いの中から好みのシャンプーや衣類の柔軟剤等日用品の購入を認めている。生活空間を共有スペースとプライベートスペースに分ける取り組みや「児童居室内の各自のスペース」を確保し、自他の区別の強化に努めている。子どもの発達段階、能力に応じてタンスや個人ロッカーを利用して私有物の自己管理を支援している。生教育委員会が「しんぶん」を作成し、トイレ等に貼っている。小学生にも分かり易く、様々なテーマについて書かれている。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりにアルバムを作り、子どもの行事、誕生会等節目ごとに写真を撮り、子どもが担当者と一緒にアルバム作成に取り組んでいる。子どもが見たいというときにはいつでも見られるようにしている。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

職員は子どもの観察に努め、子どもが職員に見られている、大切にされている実感が持てるように努めている。児童との定期的な面接（聞き取り調査）を年2回実施し、また日頃より子どもの変化や子ども間の関係性に注視しトラブルを予防している。子どもの行動上の問題に対しては職員で共通理解を図り、施設全体で取り組んでいる。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○

【コメント】

職員は子どもの普段の様子に変化があった場合は、子どもから話を聞くなどして、子ども間の暴力等未然に防ぐように、また職員間で情報の共有に努め話し合い適切な対応が出来るようにしている。問題が生じたときには、何度も粘り強く話をしよう、職員全体で統一して取り組んでいる。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性 がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にな らないようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされて いる。	○

【コメント】

子どもへの教育を含め、学校や児童相談所、警察とも連携を取り、緊急連絡網の作成をするなど、保護者からの強引な引取りに職員が対応出来るようにしている。学校にも立しよを行うなどして協力してもらっている。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行って いる。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援 プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中 で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが 行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を 行っている。	○

【コメント】

心理的ケアを必要とする子どもについて、心理ケアのプログラムを取り入れた自立支援計画を策定している。心理療法士を配置し心理室を使って遊戯療法やカウンセリング等の心理療法を使った心理的ケアを実施している。心理療法士はグループ会議や職員会議に参加して意見を出している。看護師や児童相談所の心理療法士と連携している。研修時に他施設の心理療法士と情報を共有するなどして心理療法を行っている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行って いる。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学 習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個 別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家 庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等 への通学を支援している。	○

【コメント】

学習室が整備され、学校から帰宅後には子ども達の学習の時間を確保している。施設長が中学生の学習支援を行ったり、学習支援のボランティアを活用したり、特別支援学級に通う子どもについては個別に対応する丁寧な支援に努めている。中学生以上の子どもに学習塾に通うことも奨励し職員が塾への送迎を支援している。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○

【コメント】

進路については、在学時より子どもと話し合いを持ち、児童相談所や学校と連携をとりながら、保護者とも話し合いを持ち、子どもの自己決定を最大限に尊重して決定できるように支援している。進路決定や資格取得等について、助言をするなど、進路の自己決定のための支援をしている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

将来の自立に向けた社会経験の拡大として、子どもと話し合いのもと、細部について約束事を書面に残し、アルバイトを認めている。アルバイトの賃金については、携帯電話料金以外は将来的な貯蓄に充当するようにしている。特別支援学校高等部に通う生徒については学校主導で職場実習や職場体験の機会があり支援している。資格取得についての助言等を行っている。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切ななかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員を相談窓口として家族からの相談に応じている。家庭支援専門相談員は、面会や一時帰宅、外泊時を利用して家族との継続的な関係作りに取り組んでいる。学校行事についても知らせを送り、保護者の参加や協力を得ている。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に児童相談所と連携をし、面会や外出、一時帰宅の機会を調整したり、必要に応じて家庭訪問を実施している。施設に出向くことの困難な家族に対しては、各児童相談所に職員が一緒に行き家族と面会が出来る機会を作ったり、親子関係の修復に取り組んでいる。各地の児童相談所まで子どもを連れて行き、家族等と面会をさせている。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	○
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	○

【コメント】

基幹的職員を配置し、職員がいつでも相談できる体制を確立している。基幹的職員は必要な研修に参加して職員より信頼を得られるよう養育・支援の質の向上に努めている。グループ会議で子どもの養育・支援について職員が意見を出し合い、支援方法を検討し、職員が一人で問題を抱え込まないようにしている。